

## 『三鷹市まち・ひと・しごと創生総合戦略』の基本目標の達成状況と 令和5年度の予定事業について

### 1 基本目標 1

地域ぐるみで子どもの個性を尊重し、成長を支えるまちづくり

#### (1) 概要

すべての子どもと子育て家庭が生き生きと安心して生活できるよう、地域ぐるみで子ども一人ひとりの個性を尊重しながら成長を支えるまちづくりを進める。

地域における子ども・子育て支援を担う新たな人財の確保・育成を中心とした子育て環境の整備や、「コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育」等を通して、子ども一人ひとりのニーズに応じ、きめ細かな子育て支援や個別最適化された教育の実現に向けて取り組む。また、家庭・地域生活と仕事の調和のとれた社会の実現に向けてライフ・ワーク・バランス推進施策を積極的に展開し、親の妊娠期から出産・子育て期の希望を叶えるまちづくりを推進する。

**数値目標 子ども・子育て支援施策に不満があると回答した人の割合**

(「市民満足度調査」において、不満、やや不満、ふつう、まあ満足、満足、無回答のうち、不満、やや不満と回答した人の割合)

【目標値：7.0%（令和4年度）】

11.4%（平成26年度） → 9.4%（平成30年度） → 7.7%（令和4年度）

※今回の数値は、現行基本計画では「子ども・子育て支援プロジェクト」の記載はないことから、三鷹市の子ども・子育て施策への満足度より算出した。

#### (2) 主な取り組み事業（令和5年度施政方針より抜粋 ※総合戦略掲載順）

##### ア 若者と女性の健康づくりの推進（予算額：1,272千円）

思春期・青年期の若者に対し、妊娠・出産に関する基礎情報について情報提供を行うとともに、思春期から更年期までの女性には、婦人科疾患等に関する普及啓発や相談支援を行い、若者と女性の健康づくりを推進する。

##### イ 「子どもたちからの人権メッセージ発表会」の開催（予算額：2,117千円）

子どもたちの人権尊重の重要性や必要性についての理解を深める機会として、多摩東人権擁護委員協議会（三鷹市を含む13市で構成）と東京法務局府中支局で構成する多摩東人権擁護活動地域ネットワーク協議会が主催する「子どもたちからの人権メッセージ発表会」を、構成市が輪番で開催しており、令和5年度は三鷹市で開催する。

**ウ 子育て力向上に向けた支援プログラムの充実（予算額：5,395千円）**

子育て力を向上させる取組として、総合保健センターと子ども発達支援センターが連携して実施している子育て支援プログラムについて、実施主体を総合保健センターに統合し、プログラムの実施回数を拡充することにより、妊娠期から就園前までの親子に対して切れ目のない支援の充実を図る。

**エ 地域子どもクラブ事業の拡充（予算額：125,023千円）**

各小学校で実施している地域子どもクラブ事業について、新たに第五小学校、南浦小学校、中原小学校において一部民間委託方式等を取り入れながら、長期休業日も含めて毎日実施（土日祝日除く。）し、入退室通知システム導入による安全対策もあわせて行うことで、放課後の子どもの安全・安心な居場所づくりを推進する。また、第二小学校、第四小学校、大沢台小学校、羽沢小学校においても一部実施内容や日数を拡充する。

**オ 学童保育所待機児童のゼロの継続に向けた取組（予算額：27,284千円）**

学童保育所における待機児童ゼロの継続に向けて、申込状況や今後の見込を踏まえ、新たに学童保育所分室2箇所の運営を開始する。

**カ 認証保育所の認可移行に向けた取組（予算額：11,198千円）**

市内の認証保育所のうち、認可保育園への移行を希望する2園について必要な手続き等の支援を行い、令和5年度に運営を開始する。なお、アトム保育園については、認可保育園の設置基準を満たすために大規模な改修が必要となることから、必要な工事費の一部を補助する。

**キ 病児保育事業の利用促進（予算額：29,307千円）**

病気の際に自宅等での保育が困難な児童の保育を行う病児保育施設の利用について、オンライン予約システムを導入し、更なる利便性の向上を図る。

**ク 保育施設における医療的ケア児支援の拡充（予算額：33,730千円）**

令和2年度から実施している医療的ケア児の受け入れについて、現行の3ケアに加え、新たにたんの吸引を受入対象に追加するとともに、公設公営保育園の受入施設を1園拡充し、医療的ケア児の地域生活を支援する。

**ケ ヤングケアラー支援に向けた取組（予算額：425千円）**

支援を要するヤングケアラーとその家族を早期に発見し適切な支援につなげるため、庁内における理解促進と連携体制の明確化を図るとともに、支援が必要なヤングケアラーの把握や既存のネットワークを活用した支援体制の充実に取り組む。また、研修の受講等により、地域に向け理解や支援の必要性を伝えていくための中核となる職員の育成に取り組む。

**コ 多世代交流パートナー等との協働による子ども・若者支援の推進（予算額：1,866千円）**

次代を担うすべての子ども・若者が健全に成長・活躍できる地域社会を築くため、多世代交流パートナー等との協働により、若者支援事業の拡充と庁内や地域との連携強化に向けた取組を進める。

**(ア) 地域人財を活用した居場所機能の充実**

多世代交流パートナー等をはじめとした地域人財と連携し、料理教室や学習支援等、自立支援につながるイベントの開催（月1～2回程度）

**(イ) 支援者向けワークショップの開催**

学識経験者等を講師に迎え、現代の若者が抱える悩みや課題等を学び、必要な支援について理解を深めることを目的とした支援者向けワークショップの開催（月1回）

**サ 義務教育就学児の医療費助成の拡充（予算額：9,861千円）**

子育てしやすい環境の一層の充実と子育て家庭の更なる経済的負担の軽減を図るため、義務教育就学児の医療費助成について、通院1回当たりの一部負担金200円を令和5年10月から撤廃する。

**シ 高校生等の医療費助成の拡充（予算額：2,479千円）**

令和4年10月に開始した高校生等（16～18歳）の医療費助成について、義務教育就学児と同様に、通院1回当たりの一部負担金200円を令和5年10月から撤廃する。また、令和4年度は、医療機関で保険診療自己負担額（3割）を支払った後に、市の窓口において助成の申請を行う現金給付（償還払い）での実施としていたが、令和5年4月から義務教育就学児と同様に、医療証による現物給付により実施する。

**ス 住民税非課税世帯等の妊婦に対する初回産科受診料の支援（予算額：780千円）**

住民税非課税世帯等の妊婦の経済的負担軽減を図るとともに、必要な支援につなげるため、国の補助金を活用し、妊娠判定に係る初回の産科受診料を助成する。

**セ 妊婦・子育て支援の充実（予算額：189,533千円）**

妊婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができるよう、国と東京都の補助金を活用し、保健師等による面談等を通じた妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない「伴走型支援」と、出産・子育て応援ギフトを支給する「経済的支援」を一体的に実施する。

**ソ 出産育児一時金の拡充【国民健康保険事業特別会計】（予算額：62,527千円）**

子ども・子育て支援の一環として、出産育児一時金を拡充する。また、拡充に当たっては、国の「出産育児一時金臨時補助金」を活用する。

**タ 小・中一貫教育の充実に向けたカリキュラムの改訂（予算額：1,233千円）**

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に推進するため、小・中一貫カリキュラムを改訂する。改訂に当たっては、カリキュラム改訂委員会と14の分科会を設置し、検討を進める。

#### チ 社会に開かれた教育課程の推進（予算額：1,206千円）

社会と連携・協働した教育活動を充実するため、地域人財を活用し、社会に開かれた教育課程を推進する。令和5年度は、専門性の高い大学、企業、NPOなど地域の多様な方々が講師となる教育活動を実施し、児童・生徒にとって学校の学びが社会につながることを実感できる機会を創出する。

#### ツ 学習用タブレット端末を活用した授業環境の整備（予算額：44,863千円）

児童・生徒数の増、35人学級編制に伴う教員数増等に伴い、学習用タブレット端末を増設する。また、引き続き各校にデジタル利活用支援員を配置し、授業支援や教員向け研修等を行うことにより、教員や児童・生徒が学習用タブレット端末を円滑に利活用できるよう支援する。

#### テ 総合教育相談室の体制強化（予算額：46,044千円）

児童・生徒を取り巻く諸課題に迅速かつ的確に対応するため、保護者への教育相談や児童・生徒への発達検査を行っている教育相談員、保護者への教育相談や学校・スクールカウンセラーとの連携を担っている教育相談専門員（スクールソーシャルワーカー）をそれぞれ増員し、体制強化を図る。

#### ト 長期欠席・不登校状況にある児童・生徒への支援（予算額：648千円）

長期欠席・不登校状況にある児童・生徒への支援のあり方を検討するため、小中学校の横断的な研究会を設置し、個別の支援ニーズの実態を把握・分析するとともに、既存施策の検証や新たな取組を研究する。

#### ナ 教育活動支援員の拡充（予算額：28,887千円）

歩行困難、難聴、肢体不自由など支援が必要な児童や注意欠陥・多動性障がいのある児童が安心して学校生活を送ることができるよう、現在は限定的に配置している教育活動支援員を、新たに5人拡充し、4校に通年で配置する。

#### ニ 医療的ケアが必要な児童・生徒への支援（予算額：19,189千円）

医療的ケア（胃ろうによる経管栄養、たんの吸引など）が必要な児童・生徒への支援員の配置について、スクールバスでの同伴から学校にいる間の支援を同一の業者に委託することで、安定した支援体制を築き、切れ目のない支援を実施する。実施に当たっては、国の「教育支援体制整備事業費補助金」を活用する。

#### ヌ 学校施設の大規模改修工事の実施（予算額：480,000千円）

令和4年12月に策定した「新都市再生ビジョン」の中で個別計画に位置づけている「学校施設長寿命化計画」に基づき、老朽化対策等が必要な学校施設の改修工事等を実施する。また、国が令和7年度末までの整備目標としている学校施設のバリアフリー化に向けて、必要となる建築基準法等の適合性の調査を実施する。

**ネ 学校空調設備の計画的な更新と給食室の空調設備の整備（予算額：131,412千円）**

老朽化した空調設備の計画的な更新を行い、快適な学校環境を整備するとともに、給食室の空調設備未設置校への整備を行う。

**ノ 学校トイレの改修工事の実施（予算額：371,562千円）**

校舎及び体育館のトイレの洋式化を推進するため、令和7年度の完了に向け、令和5年度は第一小学校、第四小学校、大沢台小学校、南浦小学校、第三中学校、第七中学校について、老朽化の状況に応じた改修工事を実施する。また、劣化が進んでいる第五中学校の給水管の改修工事を行う。

## 2 基本目標 2

市民がともに支え合い、健康で心ゆたかに生きがいを持って活躍できるまちづくり

### (1) 概要

高齢者、障がい者、外国人等、すべての市民が地域において健康で心ゆたかに生きがいを持って活躍できるよう、誰一人取り残さない、ともに支え合う地域社会を創出する。

地域のコミュニティを支える人財の確保が大きな課題となっており、これまでのコミュニティ行政の実績を踏まえつつ、これからの時代にふさわしい新たなコミュニティ行政のあり方を考えていく大きな転換期を迎えている。

そのため、「質の高い防災・減災まちづくり」の視点を基本としながら、住民同士の「支え合い」による新たな「共助」の仕組みや組織づくりにより地域の課題を解決していく「コミュニティ創生」の取り組みを進め、地域の絆を強化し、地域力を向上させる。

**数値目標 「コミュニティ創生プロジェクト」に不満があると回答した市民の割合**

(「市民満足度調査」において、不満、やや不満、ふつう、まあ満足、満足、無回答のうち、不満、やや不満と回答した人の割合)

**【目標値：7.0%（令和4年度）】**

**11.1%（平成26年度） → 10.7%（平成30年度） → 13.2%（令和4年度）**

※今回の数値は、現行基本計画では「コミュニティ創生プロジェクト」の記載はないことから、三鷹市のコミュニティ創生施策への満足度より算出した。

### (2) 主な取り組み事業（令和5年度施政方針より抜粋 ※総合戦略掲載順）

#### ア 道路愛称名標識の多言語化の実施（予算額：12,041千円）

三鷹市を訪れる外国人が観光しやすく、三鷹市在住の外国人も暮らしやすい魅力的なまちづくりを推進するため、道路愛称名標識の多言語化を行う。実施に当たっては、(公財)東京観光財団の「区市町村観光インフラ整備支援補助金」を活用する。

#### イ 人権基本条例（仮称）の制定に向けた取組（予算額：977千円）

人権が尊重され、だれもが安心して暮らせるまちづくりの実現に向けて、理念と方向性を明確にするため、「人権基本条例（仮称）」を制定する。

条例の骨格案や素案の検討に当たっては、市民ワークショップを開催するほか、引き続き、当事者からの聞き取りや市民会議・審議会、パブリックコメントの実施などを通して多様な意見を伺いながら取組を進める。また、条例の骨格案を踏まえ、人権を尊重するまちづくりに向けて機運醸成を図るための市民フォーラムを開催するなど、より多くの理解と共感を得られるよう、令和6年3月の制定に向けて取り組む。

**ウ LGBTをはじめとする多様な性に関する研修の推進（予算額：169千円）**

性的マイノリティに関する現状や課題、職員としての対応など、多様な性について正しい理解を深めるため、引き続き、職員に対する研修を実施する。

また、令和5年度の主任・主事職の受講により全正規職員の研修受講が完了することから、令和6年度以降の事業のあり方について検討する。

**エ バリアフリーのまちづくり基本構想の改定に向けた取組（予算額：2,970千円）**

平成23年度に策定した「三鷹市バリアフリーのまちづくり基本構想2022」について、令和6年度の改定に向けて基礎調査を実施する。改定に当たっては、重点整備地区を含めた特定事業計画の見直しや、バリアフリー法改正により位置づけられた「心のバリアフリー」に関する教育啓発特定事業の拡充を図る。令和5年度は、「心のバリアフリー」の先進事例等を調査するとともに、バリアフリーのまちづくり推進協議会において、フィールドワークやワークショップを通して、特定事業計画の見直しの検討や教育啓発特定事業の拡充内容、方向性のとりまとめを行う。

**オ 自動通話録音機の設置促進（予算額：594千円）**

自動通話録音機を65歳以上の希望者の方等へ貸与し、特殊詐欺などの犯罪被害防止を図る。実施に当たっては、東京都の「消費者行政強化交付金（補助率1/2）」を活用する。

**カ 防犯カメラの設置及び維持管理等の促進（予算額：2,170千円）**

犯罪の抑止と地域の防犯力向上を図るため、市の単独事業として、生活安全推進協議会の意見を聴きながら防犯カメラを設置する。また、商店会や町会等の地域団体が連携して行う防犯カメラの保守等に対する支援を行うとともに、防犯装備品の整備に係る経費を一部補助し、町会等による継続的な運用を支援する。

**キ 「三鷹市地域防災計画」の改定（予算額：5,222千円）**

令和4年5月に東京都が新たな「首都直下地震等による東京の被害想定」を公表したことから、新たな被害想定に基づき市内の被害について考察し、「三鷹市地域防災計画」の改定を行う。

**ク 消防団装備品の計画的な更新と継続的な活動に向けた取組（予算額：17,159千円）**

消防団員の安全確保と地域の防災力の向上を図るため、東京都市町村総合交付金等を活用し、消防団装備品の充実強化に取り組むほか、消防団員の準中型免許の取得に係る経費を助成する。

**ケ 防災NPO団体「Mitaka みんなの防災」の運営支援（予算額：14,531千円）**

令和4年9月に発足した、地域の防災力の向上及び各地域防災活動団体のネットワーク化を支援する役割を担う「Mitaka みんなの防災」について、令和4年度中の法人化に伴い、運営費の補助を行い、継続的な活動を支援する。

#### コ みたかバスネットの抜本的な見直し（予算額：39,493千円）

コミュニティバスのあり方について、運行距離や運行間隔等の課題を踏まえ、利便性向上と地域活性化に繋がるよう抜本的な見直しを行う。

#### サ 地域ケアネットワーク推進事業の充実と発展（予算額：13,695千円）

住み慣れた地域で、誰もが安心していきいきと暮らすことができる共助のまちづくりを目指し、7箇所の地域ケアネットワークの活動などを支援する。

- (ア) 各地域ケアネットワークが地域の特性を踏まえて取り組む、居場所づくりや見守り、多世代交流事業等の活動への支援
- (イ) 地域ケアネットワーク代表者会議の開催と地域ケアネットワーク合同事業の実施
- (ウ) 傾聴ボランティアの活動支援や地域福祉ファシリテーター養成講座の実施等

#### シ 災害時避難行動要支援者の個別避難計画作成の推進（予算額：9,640千円）

令和3年5月の「災害対策基本法」の改正に基づき、災害時に支援が必要な「避難行動要支援者」を対象とした「個別避難計画」の作成について、令和4年度の野川流域（浸水エリア）、大沢地区の一部（土砂災害エリア）から範囲を拡充する。作成に当たっては、一人ひとりの状況に応じた計画となるよう、庁内関係部署や介護事業者等と連携を図る。

#### ス 三鷹市福祉 Labo どんぐり山の開設（予算額：623,049千円）

在宅医療・介護の研究拠点、介護人材の育成拠点として整備を進めてきた三鷹市福祉 Labo どんぐり山について、令和5年12月の開設に向けて、施設改修工事を引き続き実施するとともに、開設準備に取り組む。

- (ア) 在宅医療・介護研究センター
  - ・企業・大学等との連携による研究プロジェクトの実施
  - ・高齢者福祉に貢献する研究を行う民間個人・団体に対する研究費の補助
- (イ) 介護人材育成センター
  - 医療系研修、認知症研修などの独自研修を本格実施するほか、ふれあい支援員養成講座や出前研修など既存研修について継続して実施する。
- (ウ) 生活リハビリセンター
  - 在宅に近い環境で生活リハビリサービスを提供することにより、施設や病院から在宅生活へ復帰する支援を行う。また、同居家族の宿泊を可能とするとともに、家族向けの研修を実施する。

#### セ 地域で共生する社会の実現に向けた取組の推進（予算額：35,253千円）

社会的孤立や「8050問題」のほか、制度の狭間にあって支援が受けられない方などが安心して暮らせるように、住民同士が互いに支え合い、主体的に課題解決に取り組む共助の基盤づくりを推進する。

- (ア) 地域福祉コーディネーターの増員
- (イ) 相談サロンの開催
- (ウ) 多機関協働会議の開催



**ソ 調布基地跡地福祉施設の整備等に向けた取組（予算額：116千円）**

調布基地跡地に三鷹市、府中市、調布市の三市共同で設置することとしている障がい者福祉施設について、令和4年6月改定の「調布基地跡地福祉施設（仮称）整備に係る基本プラン（改定版）」に基づき、令和7年度の開設に向けて準備を行う。

**タ スクール・コミュニティの実現に向けた地域学校協働活動の推進（予算額：3,538千円）**

スクール・コミュニティの創造に向けて、地域学校協働活動の更なる推進を図るため、令和4年度に引き続き、学校の活動・支援に関する組織を支援する。

学園単位で設置しているコミュニティ・スクール委員会では、協議を通じた学校運営への参画や教育活動への支援等を行っている。幅広い地域人財等の参画を得て、一層、自主的・自律的な活動を展開できるよう、令和4年度に引き続き、活動・支援に関する組織の設置を促進する。また、活動・支援に関する組織に対して補助金を交付し、学校と地域をつなぐための主体的な活動を支援する。

**チ スクール・コミュニティの実現に向けた学校3部制のモデル実施（予算額：25,475千円）**

学校施設が地域の共有地「コモンズ」として地域の人財や資源が集う場所となることを目指す。学校施設の役割を第1部：「学校教育の場」、第2部：「多様で豊かな放課後の場」、第3部：「社会教育・生涯学習などの多様な活動の場」として捉え、学校施設を機能転換し活用する「学校3部制」の実現に向けモデル事業に取り組む。実施に当たっては、東京都の「子供・長寿・居場所区市町村包括補助金」を活用する。

(ア) 機能転換に向けた環境整備（第2部以降の普通教室の活用を図るためのシャッター付きロッカーの整備）

(イ) 多様で豊かな「新しい放課後」の創造に向けた取組（地域における放課後プログラムの開発・実施）（第2部）

(ウ) 第3部におけるモデル事業の実施（学校施設の夜間や休日を活用した講座やイベントの実施）

**ツ 「みたか地域ポイント」の更なる充実（予算額：55,866千円）**

令和4年12月から試行運用している「みたか地域ポイント」について、市民にとって利用しやすく魅力ある事業展開を目指して、引き続き試行運用を行う。

令和6年度の本格運用に向けて、ポイント付与対象事業の拡充、ポイントの愛称募集及び市内一部店舗におけるポイント決済の導入などに取り組み、ボランティア活動や地域活動の参加促進及びコミュニティや地域経済の活性化を図り、地域のにぎわいの創出につなげていく。

**テ 「コミュニティ創生基本方針（仮称）」の策定（予算額：564千円）**

令和5年3月に策定を予定していた「コミュニティ創生基本方針（仮称）」について、令和5年7月の「市民参加でまちづくり協議会」の政策提言や令和5年度に改正する「三鷹市基本構想」等との整合性を図りながら行うこととするため、令和5年度に策定する。

### 3 基本目標 3

#### 地域の特色を活かした持続可能で魅力あるまちづくり

##### (1) 概要

未来を担う子どもたちをはじめとしたすべての市民、さらには市外に住む人にも、三鷹というまちで「働きたい」、「学びたい」、「住みたい」と思ってもらえる、持続可能で魅力あるまちづくりを進める。

農業、工業、商業等さまざまな産業分野において、三鷹ならではの魅力を伸ばすとともに、新たな発想による施策を展開する。

福祉・生涯学習・芸術文化など地域活動に取り組む人財の確保・育成を図るとともに、地域での活躍の場を創出し、地域の活性化や課題解決に取り組む。また、未来の三鷹を市民と行政が共に考え、創りあげていけるような新たな市民参加の手法として、幅広い世代の市民と市職員が、魅力発掘や地域課題の解決に向けて取り組む手法を検討・実践する。

今後到来する Society5.0 社会に向けて、より安全安心な地域社会の実現、より利便性の高い市民サービスの提供等、効率的で効果的なデジタル技術の活用を図るとともに、三鷹駅前地区の再開発等の地域の特色を活かしたまちづくりを進め、三鷹の魅力向上に取り組む。

##### 数値目標 三鷹市に住み続けたいと思う市民の割合

(「市民満足度調査」において、これからも住み続けたい、当分は住みたい、あまり住みたくない、すぐにでも転出したい、わからない、無回答のうち、これからも住み続けたい、当分は住みたいと回答した人の割合)

【目標値：93.0%（令和4年度）】

91.1%（平成26年度） → 90.6%（平成30年度） → **93.1%（令和4年度）**

定住意向の主な理由 第1位 住環境が良い（65.0%）  
第2位 自然環境が良い（60.0%）  
第3位 交通の便が良い（57.2%）

##### (2) 主な取り組み事業（令和5年度施政方針より抜粋 ※総合戦略掲載順）

###### ア 多文化共生センター（仮称）整備に向けた取組（予算額：19千円）

三鷹駅南口中央通り東地区再開発事業において整備を予定している多文化共生センター（仮称）について、再開発事業の進捗に合わせながら、男女平等参画審議会やみたか国際化円卓会議での意見を踏まえ、施設機能と事業案を盛り込んだ基本方針を策定する。

###### イ スマートシティ三鷹の実現に向けた取組（予算額：30,706千円）

令和4年6月に策定した「スマートシティ三鷹（仮称）の実現に向けた基本方針」において示す5つの重点テーマ（※）に基づいて、引き続き、実証・実装を繰り返しながら各種施策を推進するとともに、令和6年度の「スマートシティ三鷹構想（仮称）」の策定に向けた検討を行う。

※5つの重点テーマ

- ①「災害に強く、安全安心なまちづくり」
- ②「健康で快適な暮らし」
- ③「子育てしやすい環境」
- ④「参加と協働の推進」
- ⑤「身近でつながるまちの実現」

#### ウ 新規就農者への定着支援（予算額：37,406千円）

今後の市の農業を担うことが期待される「農業経営基盤強化促進法」に基づく認定新規就農者に対し、東京都の補助金を活用し、就農に必要な施設整備や機械導入に係る経費等を助成することで、農業経営の早期安定を図る。

#### エ 市内産農産物の活用促進に向けた取組（予算額：13,560千円）

学校給食における市内産農産物の利用率向上のため、物価高騰を踏まえ市内産農産物の購入経費を増額するとともに、食に関する正しい知識や望ましい食習慣等が身に付く食育を推進する研究校については、3校から6校に拡充する。また、公立・公私連携保育園を対象にした「三鷹産野菜の日」を引き続き実施する。

#### オ 商店会の販売促進と活性化に向けた支援の実施（予算額：3,446千円）

令和4年度に引き続き、アール・ブリュット作品の展示を中心としたアートイベントを三鷹市美術ギャラリーで開催するとともに、三鷹市商店会連合会や三鷹商工会と連携し、地域情報アプリ「ミィね!mitaka」を活用した販売促進イベントを実施する。

#### カ お土産品の開発と観光多言語音声ガイドの充実（予算額：799千円）

設立15周年を迎えるNPO法人みたか都市観光協会（以下「観光協会」という。）と協働し、「市民が観光大使～住んでよし、訪れてよしのまち三鷹～」の実現に向け、「三鷹市観光基本方針」に基づき、観光振興施策を推進する。

##### (ア) お土産品の開発

設立15周年記念として、観光協会による三鷹のお土産商品の開発を支援する。商品開発に当たっては、地域資源を活用した「農業と商業の連携」及び令和4年10月に開催した「星空の街・あおぞらの街」全国大会のレガシーをテーマに、三鷹の魅力発信と地域活性化を図る。なお、開発した商品がふるさと納税の魅力ある返礼品の一つとなるよう取組を進める。

##### (イ) 観光多言語音声ガイドの充実

地域情報アプリ「ミィね!mitaka」と連携し、利用者の位置情報と連動して、観光スポットに近づくとプッシュ通知により4か国語の音声ガイドが聞ける観光案内ツールの導入を支援する。

#### キ 東京外かく環状道路整備に伴うまちづくりの推進（予算額：18,446千円）

令和2年10月に調布市で発生した陥没事象により、東京外かく環状道路の整備は長期化することが見込まれる。令和4年度に引き続き、周辺の都市計画道路の整備に合わせたまちづくりに重点を置いた取組を進める。

(ア) 交通安全対策等に向けた調査研究

生活道路への車の流入など牟礼地区、北野地区における交通動態の調査や北野地区内外における今後の移動方策のあり方などを研究します。

(イ) 北野の里（仮称）のまちづくりの推進

東京外かく環状道路の整備に伴う地域課題や将来を見据えた上部空間の暫定利用に対して、庁内横断的に検討を進め、北野の里（仮称）の「緑と農とコミュニティ」の特性を発信できるよう、地域とともにまちづくりを推進していきます。

(ウ) 都市農地保全に向けた農地の実証実験

「都市農地の保全等に関するパートナーシップ協定」に基づき、農地機能の復元や市民参加の手法の研究を目的とした、国有地等での実証実験を継続して実施します。

**ク 三鷹駅前地区再開発の推進（予算額：12,267千円）**

令和4年度策定の「三鷹駅前地区まちづくり基本構想」や「“子どもの森”基本プラン」に基づき、三鷹駅南口中央通り東地区再開発事業を中心とした、安全で快適な魅力あふれる質の高いまちづくりを推進する。

(ア) UR都市機構と連携し、地権者等との合意形成や関係機関協議を進めるとともに、都市計画原案の作成に取り組み、早期の都市計画決定を目指す。

(イ) 再開発の事業着手の早期化に取り組む。また、整備期間中におけるまちのにぎわいの維持や防災性の向上等を実現するため、第一種市街地再開発事業を中心とした段階的な整備手法を検討する。

(ウ) “百年の森”構想の実現を目指し、三鷹駅前地区における地区計画を検討する。

(エ) 三鷹駅前地区における公共交通の課題改善に向けた検討を行う。

(オ) 専門家等の助言を得ながら、にぎわいの創出や緑化推進方策等の検討を行う。

**ケ 三鷹台駅前広場の整備の推進（予算額：92,543千円）**

平成30年7月に策定した「三鷹台駅前周辺地区まちづくり推進地区整備方針」に基づき、市の東部地区の玄関口にふさわしい都市空間の創出に向けて駅前広場の整備に取り組む。令和5年度は、令和4年度から2か年計画で進めている駅前広場の整備工事を引き続き実施する。また、整備工事完了後に既存のバス転回場を撤去する。

**コ 三鷹台駅前周辺地区のまちづくりの推進（予算額：5,000千円）**

市の東部地区の玄関口にふさわしい魅力とにぎわいの創出に向けて、多様な団体と連携し、地域と市が一体となって、まちづくりを進める。令和5年度は、令和4年度より実施しているワークショップ等を通して、地域とまちづくりの方向性や想いを共有するための三鷹台駅周辺のまちの将来像（まちづくりビジョン）をとりまとめる。また、引き続き駅前地区における協同ビル化等の調査・研究を行う。

**サ 牟礼地区生活道路緊急安全対策の実施（予算額：8,153千円）**

東八道路の延伸に伴う、交通量の増加や生活道路への車両の流入など道路環境の変化を踏まえ、歩行者等の通行の安全性や快適性を確保するため、引き続き牟礼地区の安全対策に取り組む。令和5年度は、令和4年度から取り組んでいる東多世代交流センター周辺の

三鷹台団地通りの歩道整備事業をさらに進めるため、引き続き約 230m の連続した歩道設置に向けた予備設計を行う。

#### シ 歩行空間の整備（予算額：20,470 千円）

「三鷹市緑と水の基本計画 2022」の回遊ルート等に位置づけられている遊歩道等について、歩行環境の向上という視点からルートの見直しや整備手法などを検討する。また、令和 5 年度は、「三鷹市緑と水の基本計画 2022」においてモデルルート整備計画路線として位置づけられている学園通り（大沢三丁目 10 番先）について、歩道の拡幅やバリアフリー化など令和 6 年度の整備工事に向けて詳細設計を行う。並行して舗装等に劣化が生じている井の頭五丁目の遊歩道（延長約 180m）の整備を実施する。

#### ス 屋上・壁面緑化助成の実施（予算額：2,000 千円）

三鷹駅前から市内の緑をつなぎ、市全体を大きな緑のまちにする“百年の森”構想の実現の一環として、市内全域を対象に屋上及び壁面緑化への助成制度を創設する。

#### セ インクルーシブ遊具の整備（予算額：3,495 千円）

市民に親しまれ魅力ある公園づくりを目指して、ハンディキャップの有無に関わらず、あらゆる子ども達が楽しめるインクルーシブ遊具の整備を行う。令和 5 年度は、令和 4 年度にモデル事業として設置したインクルーシブ遊具の利用状況や安全性を検証したうえで、令和 6 年度設置予定の下連雀児童公園へのインクルーシブ遊具設置工事に向けて、設計業務等を行う。

#### ソ 用途地域等の見直し（予算額：5,632 千円）

良好な都市環境を形成するため、地区計画の策定や用途地域の見直し等の都市計画制度を活用し、地域特性にあわせた土地利用の誘導を行う。

##### (ア) 東八道路延伸に伴う沿道用途の検討

東八道路沿道（牟礼一丁目）について、ワークショップ等で地域住民の意見を聴きながら、土地利用の方向性について検討する。

##### (イ) 令和 6 年度の用途地域等一斉見直しに向けた取組

東京都が実施する区域区分等の一括変更にあわせて、用途地域等の一斉見直しに向けた取組を行う。令和 6 年度の用途地域等の都市計画変更に向けて、令和 4 年度作成の都市計画変更原案を踏まえ、説明会の開催や案の公告・縦覧など都市計画法に基づく手続きを行う。

##### (ウ) 国立天文台周辺地区の地区計画及び用途地域等変更図面の作成

令和 4 年度策定の「国立天文台周辺地域土地利用基本方針」及び令和 5 年度策定予定の「国立天文台周辺地域土地利用基本構想」に基づき、都市計画変更に向けて、都市計画変更図書を作成する。

##### (エ) 東八道路沿道（野崎三・四丁目地区）の特別用途地区指定に向けた図面作成

沿道の緑化や地域との連携によるにぎわいの創出、周辺住環境への配慮等を行うことを前提に、現状の用途地域では建築出来ない店舗や工場等の建築を緩和する特別用途地区の指定を検討しており、令和 6 年度の都市計画決定に向けて都市計画図書を作成する。

**タ 心と体の健康都市づくりの推進（予算額：6,466千円）**

令和4年度策定の「スポーツを通じた健康都市づくりの基本的な考え方」に基づき、市民の継続的・計画的な運動を支援する。また、三鷹市スポーツと文化財団と連携し、健康・体力相談事業を拡充するとともに、日本女子体育大学との連携により、健康都市づくりに係る事業検証を行うなど、より多くの市民の運動習慣の定着を図り「心と体の健康都市づくり」の実現に向けた取り組みを推進する。

**チ 吉村昭書齋（仮称）の整備（予算額：144,172千円）**

令和3年度から4年度に実施した基本・実施設計に基づき、三鷹市ゆかりの文学者である故・吉村昭氏を顕彰する施設の整備に向けて、取組を進める。

また、クラウドファンディングを引き続き実施し、財源確保と施設の魅力発信を行うとともに、地域の方が交流できる機能を有した地域密着型の施設運営を目指す。

**ツ 神沢利子氏生誕100年記念事業の実施（予算額：6,028千円）**

「みたか・子どもと絵本プロジェクト」の名誉顧問で児童文学作家の神沢利子氏が令和6年1月に100歳を迎えることを記念して、寄贈された原稿や図書挿絵原画等を三鷹市芸術文化センターや各図書館で展示するほか、星と森と絵本の家と連携してスタンプラリーを開催するなど、これまでの功績を広く周知する。

**テ 三鷹こ線人道橋の一部保存に向けた検討と調査の実施（予算額：12,682千円）**

太宰治にゆかりのある三鷹こ線人道橋の老朽化が進んでおり、JR東日本において、撤去する方向性が示されていることから、階段の一部現地保存及び橋桁の一部移設保存に向けた協議を進めるとともに、保存・活用方法等についての調査・検討を行う。また、建造物の歴史・資料調査の内容をとりまとめた報告書を作成し、販売するほか、3D計測データを基に、スマートフォン等で閲覧できるAR（拡張現実）コンテンツ等を作成する。

**ト 「三鷹まるごと博物館」事業の実施（予算額：2,035千円）**

郷土みたかに関する市民の関心を深め、地域の歴史・文化に親しみを感じる契機として、「三鷹まるごと博物館かるた」を作成するほか、市民センター内の御鷹場標石を復元整備する。また、「三鷹まるごと博物館」事業を恒常的・継続的に進めるため、今後のあり方について検討する。

**ナ 市民参加でまちづくり協議会の活動の推進（予算額：36,480千円）**

地域課題の解決や持続可能な地域社会の実現に向けた新たな市民参加のまちづくりに取り組む。令和3年度に設立した「市民参加でまちづくり協議会」において、引き続き、市民参加の実践によりまちの声を聴くとともに、令和5年度の「三鷹市基本構想」の改正と令和6年度の「第5次三鷹市基本計画」の策定に向けた政策提案を令和5年7月に行う。

また、令和5年12月に活動期間が終了となることから、今後のあり方について検討する。

## ニ 公共施設のマネジメント体制及び維持保全のあり方の調査・検討（予算額：12,000千円）

多くの公共施設が更新時期を迎えるなか、増加する施設の修繕や改修等を効率的かつ効果的に実施し、施設の適切な維持保全を行っていく仕組みづくりを構築するため、全庁的なマネジメントの体制や民間の技術、活力を活用した事業手法を検討する。

## ヌ 国立天文台と連携したまちづくりの推進（予算額：102,970千円）

国立天文台敷地の北側ゾーンの土地利用転換を契機とし、天文台の森を次世代につなぐ新たな地域づくりを目指し、当該地への羽沢小学校の移転の検討を中心に、大沢地域・天文台と協働のまちづくりを進めていく。

令和5年度は、自然環境調査及び遺跡試掘調査を実施し、最適な土地利用範囲を検討のうえ、「国立天文台周辺地域土地利用基本構想」（以下「基本構想」という。）を策定する。当初、基本構想は令和4年度に策定予定だったが、両調査結果を踏まえたゾーニングプラン案を検討することとしたため、スケジュールを見直し、令和5年度に策定する。また、具体的な建物の配置案や道路計画等を示す「土地利用整備計画（仮称）」（以下「整備計画」という。）についても令和6年度策定に向けて着手する。基本構想及び整備計画の策定に際しては、各分野（まちづくり、学校教育、緑の保全・再生等）の専門家から適宜アドバイスを受けながら進めていく。

## ネ 井口特設グラウンドの利活用（予算額：6,795千円）

防災都市づくりの観点を中心とした、土地の利活用を検討する。令和5年度は、令和4年度策定の「井口特設グラウンド土地利用構想」に基づき、医療機関の誘致に向けた公募による事業者選定に取り組む。公募に当たっては、日常的な地域医療はもとより、災害時医療と感染症対策を担える市内病院を対象とし、市内の安定的な医療体制の確保を目指す。

## ノ 井口グラウンド（仮称）等の整備に向けた設計（予算額：27,522千円）

令和4年度策定の「井口特設グラウンド土地利用構想」に基づき、敷地の一部をこれまでの暫定的なスポーツ施設から恒久的な施設にするため、平常時には市民スポーツ施設のグラウンド、災害時には一時避難場所としての活用を図る。令和7年度の使用開始に向けて、一時避難場所・グラウンド、東西通路などの設計等を行う。

## ハ 寄贈物件等を活用した魅力あるまちづくりの検討（予算額：2,484千円）

市への寄贈物件（土地・家屋）等を活用した魅力や活気に満ちたまちづくり拠点の創出に向けて、三鷹まちづくり総合研究所を中心に調査・研究に取り組む。調査・研究に当たっては、将来的な空き家の活用も視野に入れ、多世代交流や地域交流が生まれるような事業の枠組み等の検討を行う。

## ヒ 職員力と組織力の向上に向けた取組（予算額：5,717千円）

新たな行政課題や時代のニーズに対応できる人財を確保するため、一部の採用試験にテストセンター方式を試行的に導入するとともに、新たな専門職種の採用試験を行う。また、業務の専門性が求められていることを踏まえ、スペシャリスト養成型人事制度の導入に向けた検討を進める。

## フ まちづくり応援寄付の推進（予算額：2,500千円）

市の魅力発信や地域の産業振興などにつなげるため、まちづくり応援寄付（ふるさと納税）における返礼品の拡充を図るとともに、デジタル広告を活用する。

### (ア) 返礼品の拡充

市内の風景や物産、市のキャラクターなどをあしらったNFTアート作品（※）を返礼品に追加し、市の魅力発信を図る。

※ブロックチェーン技術の活用により、唯一無二の価値をもったデジタルアート作品のこと。

### (イ) デジタル広告の導入

インターネット検索サイトのデジタル広告を活用し、ふるさと納税のプロモーションを行い、より多くの方に市の魅力を発信する。